

「お墓と仏壇」

島 仲

先日、テレビでお墓を取り壊す「墓じまい」ということが話題になっていました。インタビューに応じた男性は、「歳をとってきたこともあり、遠くにある墓にお参りに行くのが大変になってきたから。」と答えていました。ならば、近くに移したらいいのではないかと思うのですが、子どもたちに負担をかけたくないのだそうです。その男性は、お墓だけでなく仏壇も処分すると言います。息子も「面倒が看られないので」と話していました。それぞれの事情がありますから一概には言えませんが、何か寂しさを覚えました。

墓は、先立って逝かれた方々が納められている場所であり、自分もやがてそこに納められる場所でもあります。先祖とつながっている大切な所と受け止めていきたいものです。また仏壇は、本尊を安置してある場所であり、仏と出会う場所でもあります。真宗では仏壇のことをお内仏と呼んでおります。本尊は、阿弥陀如来を安置しております。この仏壇に朝夕お参りするのが真宗門徒の生活です。

しかし、先ほどの男性は、この仏壇を無くすというのです。仏壇は欲しいのだが、住宅事情で大きな仏壇は入らないのかもしれないかもしれません。もしそのような理由なら、「三つ折本尊」という、縦21センチ・横10センチで開くと横30センチのものもありますから、これを安置する方法もあります。

このような理由でなく、仏壇は要らないというのであれば問題だと思うのです。家の中から頭を下げる場を無くすことになるからです。頭を下げない、つまり自我を主張するだけの生活になってしまうのではないのでしょうか。自我を主張し合うだけの家庭はどうなるでしょう。想像してみてください。

仏壇に手を合わせる、このお参りする時間は、仏との時間です。

「あなたはそれでいいのですか？」との仏からの問い掛けに、あなたはどうか答えるのでしょうか。答えは出せないかもしれません。分からないかもしれません。それでもいいのではないのでしょうか。考えることが大事なのです。問いに向き合うことが大事なのです。

人間は弱いものです。何もないところで自己と向き合うことはなかなかできません。自分をすぐ擁護してしまうからです。

立派な仏壇が要るというわけではありません。自分の身の丈に合ったものでいいのです。自分の生活に合わせたものでよいのです。

手を合わせる場所がある生活、手を合わせる時間を作っていける生活をしていきたいと思います。